

国語 第1学年 おおきく なった

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。観察して気付いた大きさや形の変化を、伝える材料として選ぶ。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「おおきく なった」 教材名「おおきく なった」

2 単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。〔知識及び技能〕(1)オ)

観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。〔B(1)ア〕

観察して気付いた大きさや形の変化を、伝える材料として選ぶ学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。〔B(1)ア〕

〔主体的に学習に取り組む態度〕①観察して気付いた大きさや形の変化を、伝える材料として選ぶ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

観察して気付いた大きさや形の変化を、伝える材料として選ぶ。この教材では、観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師が用意した安全な身近な物を観察し、形・色・位置・動きなどの記録から必要な特徴を選ぶ。独自例「赤い物」からどこが赤いかまで説明を加え、読み手の想像と照合する。想定する難しさは、印象語だけで対象が伝わらない、見た事実と想像を混ぜる。評価では、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしているかを、観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。学校で育てるものなどを観察し、形・色・大きさを絵と言葉で記録する。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～3時（本時）：○学校で育てるものなどを観察し、形・色・大きさを絵と言葉で記録する。前の記録と比べて知らせたい変化を選び、短い文にする。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第3次 第4時：○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも

理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（2／4）

（1）本時の目標

観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。（B(1)ア）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。

○「前に見た時と比べ、何がどう変わりましたか」

【めあて】観察して気付いた大きさや形の変化を、伝える材料として選ぶ。

予想される児童の反応：・かわいいだけでは形が分からない。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「前に見た時と比べ、何がどう変わりましたか」

学校で育てるものなどを観察し、形・色・大きさを絵と言葉で記録する。前の記録と比べて知らせたい変化を選び、短い文にする。

読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・かわいいだけでは形が分からない。

・大きさより並び方を説明したい。

・触っていないのに柔らかいと決めていた。

指導上の留意点：教師が用意した安全な身近な物を観察し、形・色・位置・動きなどの記録から必要な特徴を選ぶ。独自例「赤い物」からどこが赤いかまで説明を加え、読み手の想像と照合する。

想定する難しさ：印象語だけで対象が伝わらない、見た事実と想像を混ぜる。

評価では、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしているかを、観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・触っていないのに柔らかいと決めていた。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「前に見た時と比べ、何がどう変わりましたか」。中央は、観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

